

広島平和記念式典派遣事業 報告会



緊張の面持ちで式典に参列する派遣団



安平町平和教育マスター井森みゆきさんから託された千羽鶴を献納

派遣団 村井 翔一 君 (追分高校1年)
谷口 萌香 さん (追分中学校3年)
小野 遙生 君 (早来中学校3年)
本野 綾人 君 (安平小学校6年)
恩田 菖 さん (追分小学校6年)
松隈 翔馬 君 (遠浅小学校6年)
小定 結菜 さん (早来小学校6年)
引率 大橋 佑翔 さん (教育委員会社会教育グループ)
石丸 学 さん (教育委員会学校教育グループ)

8月5日から7日にかけて、安平町の小中高生7名が広島平和記念式典派遣事業に参加。

広島市で開催された平和記念式典に参列したほか、平和の象徴として知られる原爆ドームや被爆の惨状を伝える多くの資料が展示されている広島平和記念資料館などを巡り、戦争の凄惨さや平和の尊さについて学びました。

今回の特集では、8月26日に町民センターで執り行われた報告会「平和への誓い」の中で派遣団が発表した思いや決意をお伝えします。

(紙面の都合により、文章を一部割愛しています)

様々な人々の思い

村井 翔一

今回の派遣では「様々な人々の想い」という個人テーマを掲げました。広島で何が起きたのかだけでなく、当時の人たちの想いをもっと詳しく知りたかったためです。

広島に着き最初に向かった

のは、原爆ドームです。目の当たりにすると、「強い存在感」と「無機質」という印象を抱きました。大きく破損していても、今もなおあの姿を保ち続けている姿はとても存在感がありました。そして、当時は多くの人で賑わう場所であった建物も、原爆とともに消し去られ何一つその面影が無いことに無機質さを感じました。

原爆は1945年8月6日、広島市のほぼ中心部約600m上空で爆発。世界で唯一の被爆国となりました。

世界の恒久平和に向けて、互いの相違点を認め合うことが必要です。そして今、国民一人ひとりが考えを持ち、行動していくことが必要だと思います。

20万人の本当の意味

谷口 萌香

1945年8月6日。広島は焼け野原となりました。多くの人の命を奪い、悲しみをもたらした戦争はなぜ起きたのでしょうか。

悲惨な戦争が起きるのは

「考え方の違い」が原因だと思っています。しかし、相手の考えを尊重せず、自分の考えばかりを押し通そうとすれば、争いは避けられません。そして争いの手段として戦争を選んでしまったのでしょうか。多くの悲しみをもたらしたこの出来事を二度と繰り返してはいけないうと強く思いました。

原爆が落とされ、広島では何万もの家屋が壊されました。なくなつた方は約20万人。そして、20万人分の家庭も同時に失われたことに気付かされました。

今回の派遣で、平和のために必要なのは、「知る」ということだと思いました。知らないことは防ぐことはできません。戦争がもたらす悲しみや苦しみを知ることができたからこそ、心から戦争に反対します。そして、皆さんにもあの日、広島で何が起きたのか知ってほしいです。世界に平安が訪れるために。